

第3回 第5期武蔵野市緑化・環境市民委員会記録

●日時；平成28年2月1日（月）19：00～21：00

●場所：武蔵野市役所812会議室

●出席者（敬称略）：

<委員長> 小田 宏信

<副委員長>大森 克徳

<委員> 榎本 一宏、清水 健一、梅田 彰、鈴木 圭子、櫻井 勝實、
町田 光司郎、小松 由美、石井 かおる、三浦 香澄

<事務局> 武蔵野市環境部緑のまち推進課、国際航業（株）

●次第

1. 開会
2. 議事（1）各回のテーマについて
3. 議事（2）公共の緑の整備・保全について～地域に愛される公園緑地とは～
 - ① 公共の緑の整備－公園緑地の拡充とリニューアル－
 - ② 公共の緑の保全－公園緑地・街路樹の管理－
 - ③ その他の公共の緑の整備・保全
4. その他（1）日程等について
5. 閉会

●発言要旨

1. 各回のテーマについて

- ①各回のテーマについては了承した。

2. 公共の緑の整備－公園緑地の拡充とリニューアル－について

- ①緑豊かな住環境が武蔵野ブランドの価値となり、高所得者が武蔵野市に来ることもつながっている。ゆえに緑化に関する財源を優先して確保することが必要だと考える。また例えば、横浜市で実施しているみどり税のように市民が負担することも考えられる。
- ②公園用地取得の民間業者の対抗措置として、税の優遇や条例等の制度を検討できないか。
- ③市内に若い世代の定住を進めるには、小さい子どもが遊べる遊具のある公園に改修することも必要である。高齢者だけではなくみんなが使いやすい公園、市のビジョンに向けた公園を作ってはどうか。
- ④公園緑地の拡充とリニューアルに民間活力の導入も考えられる。提供公園ではない形で、民間が公園を整備する動きがある。また、開発事業者による公園改修した事例もある。
- ⑤利用されていない小さな公園について、NPO や市民が維持管理に関わることで公園の魅力を

高めている事例がある。緑と花を愛するマインドを育てることが重要である。

- ⑥奥まった場所にある小規模な公園は存在を知られていないものもある。市内の公園情報を発信してはどうか。

また、小さい公園は存在価値のアピールが難しいため、移動販売など仮施設等の空間利用によってアピールすることも考えられる。

小規模な公園のネットワーク形成により、公園機能を補完する必要がある。

- ⑦提供公園は整備後の維持管理を考慮し、行政からディベロッパーに対して、地域を巻き込む仕組みづくりを提案してはどうか。

- ⑧大学が公園整備に関わってはどうか。学生が関わることで地域の活性化にもつながる。

- ⑨公園リニューアルの際のワークショップでは、地域の実情に合わない場合があり、参加者を地域に関わりが深い人を中心にしてはどうか。

3. 公共の緑の保全－公園緑地・街路樹の管理－について

- ①街路樹の管理については、将来の維持管理を見据えて、植栽の際の工夫が必要ではないか。地域や専門家の意見を聞きながら、行政の中でも上手く連携をとって欲しい。

- ②緑ボランティアの高齢化・固定化に対しては、地域の大学生のボランティアへの参加、子どもの教育への取込みによって、若い人を取り込めるのではないか。

また、小中学生の保護者世代についても、緑化活動に興味を持っている人もおり、そのような世代も巻き込めるとよいのではないか。

- ③市民参加のボランティアは労働力の提供だけでは上手くいかない。知的なものとしての楽しみ、収穫といった実益、人に自慢できるようなステータス、居場所といったものが、継続する上で必要である。

- ④大学の学生ボランティアとボランティアを必要とする団体とが、一緒に話しができる機会があるとよいのではないか。

- ⑤ボランティアの交流や情報交換といった横のつながりを強め個のモチベーションを上げるように、ボランティア活動の仕組みを考えてはどうか。また、花と緑の活動に対して、行政の部署を超えた包括的な取組ができないか。

- ⑥地域に関わるには緑ボランティア団体よりも小規模なグループの方が参加しやすい場合がある。道具の貸出しでもきっかけになる。

- ⑦市報は見る人が限られるため、若い人に告知するには工夫が必要である。また、ボランティアの情報発信について、市のバックアップがあると告知しやすくなる。

- ⑧子ども時代に自然とふれあう経験することは重要である。庭がない家庭も多く、緑にふれあえる環境を整備することも必要である。学校では花と緑の活動に関心やニーズはある。ビオトープを活用していくには市のイベントで学校に維持管理リーダーを送ることが考えられないか。

4. その他について

- ①平成28年度の委員会開催日について、各委員の予定を調整したい。